

授業のユニバーサルデザイン化の研究 ～伝え方の工夫～

小田原市立千代中学校

1 事業の目的

本校は教育目標を「自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」とし、これからの時代をたくましく生き抜き、未来を拓く力を育てることをめざし、教育活動に取り組んでいる。ユニバーサルデザインの視点と合理的配慮について重点をおき研究を進め、ユニバーサルデザイン化を図るための千代中スタンダードを生徒ともに作る素地ができた。今年度はまとめの年として、昨年度の成果を生かしつつ新たな視点を取り入れながら研究を進めたいと考えている。

これからの時代をたくましく生き抜くためには、社会の変化や課題について気づくことが必要になってくる。そこで、地域の方々、スクールボランティア、PTAなどと連携を図りながら、地域の良さを生かした授業づくりを工夫し実践していく。

2 事業の内容

(1) 授業のユニバーサルデザイン化にさまざまな面からせまり教育活動を行う

☆「説明（授業の流れ）」「板書」「教材」の3グループに分け、授業のユニバーサルデザイン化を考えていく。(校内研究と連携)

- ・3年間で3つの視点からユニバーサルデザイン化を図る。
- ・互いに授業参観を行い、意見交換をするとともに、講師の方に指導助言をいただきながら改善を図る。

(2) 地域の良さを生かした「ふれあい授業」を実践する

☆保護者や地域の方とともに学ぶ「ふれあい授業」を各教科・領域等で実践する。

- ・各地区まちづくり検討委員会が作成した地域別計画を学習教材に取り入れる。
- ・地域の担い手としての自分の生き方を考える、発信する学習を実践する。

(3) 地域との協働をめざした学校評議員会のあり方を研究する

☆学校評議員会の運営を改善し、学校づくりへの参画意識を高める。

- ・ワークショップ型会議を行い、学校評議員会の協議を活性化するとともに、出された意見を授業づくりに反映する。

3 事業の成果

(1) 授業のユニバーサルデザイン化にさまざまな面からせまり教育活動を行う

「説明（授業の流れ）」「板書」「教材」の3グループに分け、授業のユニバーサルデザイン化を考えた。互いに授業参観を行い、意見交換をするとともに、校内研究全体会を3回行い、講師の方に指導助言をいただきながら改善を図りながら千代中スタンダードの定着を目指した。また、夏季研修では、「授業のユニバーサルデザイン」という内容で、横浜国立大学の関戸英紀先生から講話をいただいた。インクルーシブ教育の考え方や各国の状況、授業改善につながる学習評価も含めて今後の授業改善に向けて多くの示唆をいただいた。



(2) 地域の良さを生かした「ふれあい授業」を実践する

総合的な学習の柱の一つである地域理解学習では、生徒が地域の様々な課題に気づき、社会をつくる一員として課題の解決に向けての実践力を身に付けるように働きかけた。1年は、「地域調査」を行い学区で活躍している様々な分野の方から話を聞き課題を見つけた。また、上府中まちづくり委員会のご協力の下、千代中カントリーファームでの「農業体験」を行い、地域の人とふれあい、農業の魅力について体験を通して学んだ。2年生は、鎌倉遠足や職場体験という中にも、地域理解の視点を入れながら、小田原市と比較したり、地域を支える職業について体験を通して学んだりする中で地域理解を深めた。また、小田原市の企画政策課の協力を仰ぎ、小田原トライプランについて講義していただき、小田原市の目指すまちづくりを理解することができた。更に、キャリア教育の一環として毎年実施している職場体験についても、自分達の生活が多くの職業によって支えられていることに気づいたり、働く意義を学んだりすることができた。このような積み上げにより、3年の修学旅行では京都奈良での人や文化とのふれあいを通し、更に地域を見つめ直すことができた。今後は、これらの学習を通して、社会に意欲的に参画しようという意識を高めていきたい。

教科指導の中では、3年生では、家庭科の保育実習を上府中保育園で実施している。生命の大切さや個々を尊重する心を育むことができた。



(3) 地域との協働をめざした学校評議員会のあり方を研究する

年間3回の学校評議員委員会では、委員の皆さんから意見をいただき活発な話し合いができた。第1回目の学校評価計画、グランドデザインなどについてご意見をいただき、次年度の課題が明確になった。2回目は、地域との連携のあり方をうかがった。校外での生徒指導など時代と共に子どもの様子が変わり、これまでのように子どもの様子が地域の中で見えにくくなったことに対し、学校と地域が連携すべきかについては、これからの大きな課題であると共通認識を持つことができた。また、学校評価のまとめに対し意見をいただくことで次に向けての目標も明確になった。学校給食を試食や配膳や給食の様子を参観することで授業とは違う子ども達を理解してもらうことができた。3回目は、学校評価のまとめを通して、次年度への意見交換することができた。

4 事業のまとめ・次年度に向けて

子どもたちの学ぶ意欲の向上と多様な考え方を育むために、3つのグループがそれぞれ2年間の成果を生かしながら新たな視点を取り入れ、授業のユニバーサルデザイン化を確立していくことができた。説明や板書のわかりやすさ、題材やワークシートの工夫について考え実践できたことは成果である。今後は、千代中スタンダードに縛られるのではなく、生徒にとってどうなのか考えるということや教科指導の目的が達成できているのかということなどを常に考えていく必要があるということである。新指導要領に基づき、さらに育てる力を明確にした年間計画、単元計画、評価計画について研究を進めなければならない。

地域と連携した授業作りについては、総合的な学習の内容を三年間更に工夫して定着していくことが今後の課題である。